

竹原市立学校適正配置懇話会答申【概要版】

構成

懇話会で議論してきた内容を整理し、「将来推計からみた市立学校の現状と課題」を克服し、「近未来の『竹原市教育』が目指す方向性」を実現し、「保護者アンケートにみる学校教育への期待」に応えるため、「地域力を活かすコミュニティ・スクールの可能性」を活かして、「市立学校の統合再編に向けたデザイン」を示している。

将来推計からみた市立学校の現状と課題

児童生徒数の減少

- 9年後 952人 (R3比29.3%減)
19年後 669人 (R3比50.6%減)
- 複式学級の発生 (北部2校)

小規模校の課題

- 市立学校(11校)すべて小規模校
- 人間関係や相互評価等の固定化
- 切磋琢磨する機会の減少
- 集団活動や学校行事、部活動に制約
- 教員集団のバランスのとれた配置が困難 など

学校施設の老朽化

- 竹原西小 築50年経過
- 6校が築40年, 3校が築30年経過

ブロック制 (中学校区制)

- 各ブロック (忠海, 竹原, 賀茂川, 吉名) の児童生徒数に偏りがある。

近未来の「竹原市教育」が目指す方向性

【学習指導要領等を目指す
資質・能力と学び】

- 主体的・対話的で深い学び
- 個別最適な学び ● 協働的な学び

学校・家庭・地域が連携・協働して子供たちを育てる。

【竹原市総合計画・竹原市教育大綱】

- 夢をもち、多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことができる人材の育成

保護者アンケートの結果にみる本市学校教育への期待

- ◇ 「コミュニケーション能力」「自分の意見を表現する力」「協調性・柔軟性」「多様性に対する適応力」を身に付けることを期待している。
- ◇ きめ細やかな個別の指導と協働的な学びの充実を通じて、多様な学力の向上を図ることを期待している。
- ◇ クラス替えができる規模 (1学年2~3学級)、各学級20人台を望んでいる。

地域力を活かすコミュニティ・スクールの可能性

- ◇ 本市では地域と学校が協働した取組を積極的に行い、地域とつながる学習活動を展開し優れた成果を上げている。
- ◇ 令和3年度に全校がコミュニティ・スクールに移行。
- ◇ 地域と保護者が児童生徒と学校を応援し、学校をよくするという意識を高め、地域の実情にあった学校づくりを進める必要がある。

市立学校の統合再編に向けたデザイン

◆竹原版コミュニティ・スクールづくり

- 統合された学校のコミュニティ・スクールは部会として残し、統合先のコミュニティ・スクールと連携、協働し、子供たちや地域住民のシビックプライドの醸成や地域課題の解決に資する。

◆地域に根ざした9年間の系統性のある 小中一貫教育

- 地域の3つの教育力(地域がもう一つの教室、地域住民がもう一人の先生、地域教材がもう一つの教科書)の活用

◆コミュニティ・スクールを中核とする 義務教育学校の設定

- 今後10年前後でブロックごとにコミュニティ・スクールを中核とする4義務教育学校体制とする。
- これまでの各学校の特色ある取組を十分に生かし、融合しながら新たな特色を創出。
- その後、段階的に全義務教育学校を対象とする(仮称)竹原学園の設立を目指す。

◆学校選択制

- 現在中学校・義務教育学校後期課程学校選択制を導入
- 今後目指していく9年間の系統性をもって地域と学校が連携、協働して子供たちを育てる義務教育学校と学校選択制は相容れない。
⇒ 学校選択制の一形態である特認校制度も含め、学校選択制は維持、導入しない。